

CASE 5

卸売業・小売業

アスクル株式会社

特別な休暇制度活用事例

ASKUL サンクスホリデー  
(永年勤続休暇)

ポイント1

社内有志の  
タスクフォースによる  
休暇制度提案を具体化

ポイント2

「付与年度内に」「連続して  
休暇を取る」という2つの  
ルールで休暇の取得を促進



社内タスクフォースの発案が生んだ  
永年勤続休暇制度

2015年に「ダイバーシティ宣言」を社内外に向けて発信するなど、働きやすい職場づくりへの積極的な取組を進めているアスクル株式会社。その実現に向け、社内有志によるタスクフォースチーム（分科会）を設置して、社員の声や提案を取り入れ、制度づくりを行っています。2016年4月からスタートした「ASKUL サンクスホリデー」は、その取組から生まれた休暇制度で、勤続年数の節目を迎えた社員のリフレッシュにつながっています。人事部の長谷川仁さんと朝生千弥さんに、その導入経緯や目的をお話いただきました。

法人概要

[設立] 1963年  
[事業内容] 通信販売事業  
[従業員数] 636名 (2016年5月現在)

[年次有給休暇の取得率] 71.4% (2015年度実績)  
[年間休日数] 122日  
[URL] <https://www.askul.co.jp/>

勤続5年目ごとの節目に  
5日または10日の連続休暇を付与

「ASKUL サンクスホリデー」は、勤続5年ごとの節目を迎える社員に付与される、法定外の特別な休暇制度です。2016年度から導入した制度で、勤続5年目、15年目といった「5年」の節目には5日間、10年目、20年目などの「10年」の節目には10日間の有給休暇を付与しています。社員には、リフレッシュの時間として使って英気を養ったり、その期間中の体験を仕事にも生かしたりしてほしいとの意図で導入しました。

こま切りに休暇を取るのでは本来の目的を達成できないため、この休暇を取得するには、「年度内に」「連続して取得する」という2つの条件を設けています。2016年10月時点での利用者は14名で、海外旅行に行った人もいれば、自宅で5日間をゆっくり過ごした人もいます。5日間、10日間の休みに年次有給休暇をつなげて、より長い休暇にする例も多く、導入してまだ間もないのですが、狙いどおりに使ってもらえていると感じています。

タスクフォースによる提案から休暇制度を具体化

当社では、社内の6つのタスクフォースからの、多様な働き方の促進や組織風土の改革に関する提案に基づき、各種制度を形にしています。「ASKUL サンクスホリデー」もその一つで、働き方を検討するタスクフォースから、長期休暇制度の要望が上がったのが、そもそものきっかけでした。2015年に長期休暇制度策定の動きが具体化したものの、既存の勤怠システムでは対応できなかったため、対応させるための仕組みづくりには時

間が必要でした。その対応を経て、2016年の4月から新しい休暇制度としてスタートしました。

制度の利用を促すため、社内イントラネットに、各自に「ASKUL サンクスホリデー」がいつ付与されるかが一目でわかる早見表を掲載しました。また申請については、システム上でカレンダーの日付をクリックして休暇の開始日・終了日を入力すると、土日・祝日といった休日を除いた形で申請できるようになっています。

特別な休暇制度ではありませんが、「フレックスタイム制」や「年次有給休暇の時間単位付与」なども、タスクフォースから導入の提案を受けて実現した制度です。社員の声を生かした制度づくりができていていると思います。

制度とその意図を社員に伝え  
生き生きと働き続けられるための環境を作る

当社では制度創設以前から、リフレッシュできるような長期休暇を1年に一度は取得するよう推奨していましたが、制度がないと浸透は難しいと感じていました。「ASKUL サンクスホリデー」によって、長期休暇を取りやすい職場風土ができるのではと期待しています。「ASKUL サンクスホリデー」は今年始まったばかりの制度ですから、まずは社員に制度の存在や意図を認識してもらうよう取り組むとともに、5年に一度利用できる制度がしっかりと利用されているかを検証することで、制度の定着を図っていきます。

長期休暇を取ることで、一人ひとりが生き生きと働き続けられる。そのための環境づくりを第一に考えていきたいと思っています。



休暇で得られた「時間の余裕」が自分の働き方を考えるきっかけにも

BtoCカンパニー ヘルスケア事業部 谷内幸代さん

8月の中旬に、5日間の「ASKUL サンクスホリデー」を使い、有給休暇の1日と土日・祝日の休みを連続させて、入社以来最長の11連休の夏休みを取りました。そのうち6日間は、オーストラリアのケアンズで過ごしました。一番印象に残ったのは、世界遺産にも登録されたキュランダの熱帯雨林の景色です。日常とはまったく違う、ゆったりと流れる時間の中で過ごすことができ、とても癒やされました。

残りの5日間は、日本に戻ってのんびりと過ごしました。時間の余裕があったので、これからの自分の生き方や仕事について考えることができ、休暇を終えて出社するときには、気分を新たにがんばろうという気持ちになれました。社内には、業務の都合で長期の休みを取りにくい部署もありますが、この制度は会社全体で、その状況を変えていこうとする意図に基づくものだと思います。今回の休暇取得は、どうすればまたまった休みを取りやすい職場になるか、そのためにどう働けばよいかを考えるきっかけにもなりました。



左から、朝生さん、谷内さん、長谷川さん